

大湊高校同窓会 会報

やまびこ

(16期生 高橋一明氏 揮毫)

CONTENTS

- ◆本部だより……………P2～3
- ◆東京同窓会・クラス会だより…P4～5
- ◆活躍する同窓生たち……………P6～7
吉田 理子(47期生)
- ◆学校だより……………P8
校長あいさつ
生徒会長あいさつ
- ◆令和元年度部活動結果……………P9
- ◆平成30年度卒業生進路……………P10



巻頭あいさつ 『平成』から『令和』へ



第15代会長
佐々木 一浩
(31期生)

三十年間慣れ親しんだ「平成」が幕を降ろし、今年五月一日から「令和」へと時代が変わりました。

平成の三十年間で、私たちの生活スタイルは、大きく変化しました。その中でも最も大きいものは、携帯電話の普及と進化により、コミュニケーションの在り方まで変わりました。便利になった反面、携帯電話を使った犯罪も増えてきました。今では一人一台が当たり前となった携帯電話ですが、平成の最初の頃は、固定電話と公衆電話が主流で、「テレホンカード」を持ち歩いていた頃が何故か懐かしく想います。

また、平成元年四月一日から三％で導入された消費税も平成九年には五％、平成二六年には八％、そして今年十月からは十％へ増税されることとが予定されています。これも平成の時代に大きく変化したものの一つだと思います。

令和に入り、高齢ドライバーによ

る交通事故や殺人事件等が毎日のようにニュースで流れています。また、世界の各地で地震や異常気象による自然災害が頻発しています。そして、来年は、東京オリンピックが開催されるということで、テロ等の心配もされていますが、同窓生の皆様が事故や事件、災害に巻き込まれないよう心よりお祈り申し上げます。

同窓会の会員数も、今年の春平成最後の卒業生となる一八四名の新卒業生を迎え、一五、八二六名となりました。同窓会では、毎年六月には東京で、八月にはむつで同窓会総会及び新卒者激励会と懇親会を開催しています。会員の皆様のご参加をお願い致します。

結びに、同窓生の皆様と大湊高校にとりまして、「令和」という時代が輝かしい時代となりますようご祈念申し上げます。挨拶と致します。



大高祭ねぶた運行での流し踊り
(大湊駅での様子)

平成30年度 同窓会 入会式

◎期日 平成三十一年二月二十八日(木)
◎会場 大湊高校第一体育館

本部だより



佐々木一浩同窓会長より、歓迎の言葉及び入会記念品贈呈が行われました



第71期生として入会する新卒者たち



佐々木東京同窓会顧問より
歓迎の言葉をいただきました



同窓会役員紹介



司会進行の飛内先生



最後に三井副会長、2年次の現応援団長、3年次の元応援団長より、71期生に向けてエールが送られました

令和2年度の日程

【本部】

青森県立大湊高等学校同窓会
総会・懇親会
～新卒者激励会～

【日時】 令和2年8月15日(土)
総会17:30/懇親会18:30

【会場】 プラザホテルむつ
JR下北駅そば
TEL0175-23-7111

【東京】

青森県立大湊高等学校
東京同窓会
定期総会・新卒者激励会

【日時】 令和2年6月27日(土)
15:00～17:00

【会場】 グランドヒル市ヶ谷
(予定)

タイムカプセルを掘り起しました

日時 平成30年8月15日(水)

創立50周年記念の際に埋めたタイムカプセルの掘り起しを行いました。当日はあいにくの天気でしたが、約80名の同窓生が参加しました。高校時代の思い出を語り合う姿が印象的でした。



令和元年度の日程

【本部】

青森県立大湊高等学校同窓会
総会・懇親会
～新卒者激励会～

【日時】 令和元年8月15日(木)
総会17:30
懇親会18:30

【会場】 プラザホテルむつ
TEL0175-23-7111

【東京】

青森県立大湊高等学校
東京同窓会
定期総会・新卒者激励会

【日時】 令和元年6月29日(土)

【会場】 グランドヒル市ヶ谷
TEL03-3268-0117

新卒者の活躍



細川 嵩さん

(71期生)

高校時代はバレー部主将を務め、部活動引退後は8時間の猛勉強の末、一般入試で岩手大学に合格しました。卒業時には成績優秀者として表彰を受け、文武両道の素晴らしい生徒でした。現在は建築士を目指し勉強中とのことです。

大学生になってからは、自分でやらなければいけないことも増えてきて、忙しさもありつつ充実した日々を過ごしています。

2. 高校時代について

私が高校生の時は、ほとんど部活動のバレーボールばかりしていました。高校総体で満足のいく結果が出なかったことは本当に悔しかったですが、苦楽を共にした仲間との3年間はかけがえのない思い出になっています。

3. 今後の抱負

現在、私は理工学部で専門的な分野を勉強しています。内容は難しいですが、興味深い科目もあり、楽しさも味わいつつ勉強しています。大学の4年間で専門的な技術・知識を身につけて、自分自身の人生を豊かにしたいと考えています。

1. 新生活について

大湊高校を卒業してからおよそ5ヶ月ほど経ち、青森県を離れて岩手県での生活にも慣れてきました。



東京同窓会だより

青年海外協力隊が培った 信用と信頼を未来に



東京同窓会
会長
三山 修

一五年ほど前、金融市場調査で、ASEAN（東南アジア諸国連合）各国を訪問した際、日本に対する信用と信頼が極めて高いことを、身を持って体験した。

第二次世界大戦で、ASEANは日本軍の占領により、多くの人々が戦争犠牲者となり、終戦後、対日感情は非常に悪化した。

日本は一九五〇年代以降、賠償を契機にASEAN各国と国交を回復、経済面での協力関係を強め、六〇年代には、ODA（政府開発援助）を通じて賠償の補完を図った。

一九六五年、国民参加型ODAとして青年海外協力隊（JOCV・Japan Overseas Cooperation Volunteers）が発足、これは一九六一年にケネディ大統領によって創設された米國平和部隊を模範にしたもので、

日本の青年たちの海外に向ける熱い思いに、道を開こうとした海外ボランティア派遣制度である。現地の人々の目線で教育や保健、農業技術、地域開発などの分野にボランティアで取り組むものである。発足から半世紀以上が経ち、派遣国からの要請に基づき活発な活動を行っている。二〇一八年六月末現在までに九一カ国、四万四千名の隊員が派遣されている。隊員らの誠実で一生懸命な努力が、現地の人々に徐々に受け入れられ、その成果が喜ばれたことが、過去の悲しい反日感情を和らげ、信頼度を大きく増していく一助となった。

ASEAN進出の日本企業からも「JOCVのお陰で、日本が行うのであれば、信用と信頼が置けるので事業がスムーズに行くことが多い」と聞いている。

JOCVが培ってきた信用と信頼は、日本の財産としての価値創造を実現し、派遣隊員のひた向きでたゆまぬ活動により、未来に持続可能なものとなる。大湊高校在校生・同窓生の中からもJOCVにトライする方が出ることを期待したい。

同窓会・クラス会お知らせください

各期、クラス単位で同窓会を開いているというお話をよく聞きます。ぜひ、皆さまの和やかで楽しい様子を「やまびこ」で紹介させていただきたい。ご一報くだされば、事務局から左記のことをお伺いするために、ご連絡いたします。

- ◆◆期生
- 期日・会場
- 写真（当日のようす、近況等も併せて）

【お問合せ】

- 大湊高校同窓会事務局
- ★電話 0175 (24) 1244
- ★FAX 0175 (24) 2680
- ★メール dosokai.omn.h@asn.ed.jp



大湊高校東京同窓会 令和元年度総会・新卒者激励会 元年6月29日 於:グランドヒル市ヶ谷



【参加者 59名】 来賓(県人会・高窓連・田高・東奥日報・母校9名・同窓会本部7名) 会員(新卒10名・OB 29名)



(乾杯) 奥川後援会理事長 三上高窓連副会長 神県人会副会長 佐々木本部長 下川原校長 三山会長

太田監事



会場懇談風景



(追記) 午後6時から西館『さくら』で二次会あり(@3000円)・・・ 36名参加。飲み放題、歌い放題で大盛会。残念ながら掲載スペースなく、割愛しました。



活躍する同窓生たち



あやこ 吉田 理子さん
第48期同窓生
(写真は青森西高校教諭時代)

吉田さんは高校三年生の時に世界ジュニア選手権に出場。早稲田大学に入学後にも活躍し、アトランタオリンピック、シドニーオリンピックに二大会連続で出場しました。現在は日本ボート協会初の女性コーチとして二〇二〇東京オリンピックに向けた活動をしています。

Q 高校時代はどのような生徒でしたか。

成績優秀で優等生な一歳年上の姉と比べられ、それが嫌で反抗心の塊を心に抱えています。学校の先生も親も、姉はできるのになぜあなたは、という目で見ていている気がして、高校に入学したら比べられないことに挑戦しようと決めていました。そして見つけたのがボート部でした。入部して間もなく部内で実施した二〇〇〇Mのタイムトライアルのとき「何分何秒で漕ぎ切ったら日本一になれますか？」という質問を顧問の先生にしたのを今でも覚えています。ボートで絶対に強くなる、そういう覚悟を決めていました。

Q オリンピックはどのような舞台でしたか。

高校三年生でU-19世界選手権(ドイツ)に出場したとき、東奥日報社の記者が「下北からオリンピックへ」という見出しで新聞に記事を書いてくださいました。本人でさえ、自分がオリンピックに出場することなど想像もしていなかったときのことです。誰もが夢物語だと思っていたと思います。でも、大学に入学して、日本代表選考合宿に参加する機会を頂いてから日々のトレーニングに取り組む中で、少しずつオリンピックに近づいていく感覚がありました。

思い描いた大舞台に出場したというよりは、今、目の前にあるレースを一つずつ勝ち進んだ先に、オリンピックがありました。もちろん、二度目のオリンピックでは心境が違いました。日本代表になりたいというよりは、世界の舞台で勝ちたいという気持ちや、すでに日本代表としての自覚が芽生えていたからです。そうして挑んだ二度目のオリンピックのときの、スタート地点から振り返って確認した二〇〇〇M先の霞んだゴールの風景を思い出すと、今でも緊張が蘇ります。このスタート地点に立つために、いったいどれだけの距離を漕いできたのか、いったいどれだけの：そう考えると、あとはたったの二〇〇〇Mだけ。覚悟を決めてスタートの態勢を整えると、左右六レーンに並んでいる各国の代表選手が、私と同じように静かに呼吸を沈めているのがわかりました。この空気感は、このスタート地点に立つための準備をした、こ

のスタート地点に立つにふさわしい人間にしかわからない、特別な空気だと思います。



シドニーオリンピックでの吉田さん
(写真左が吉田さん)

Q 現在はどのような活動をしていますか。

私は、青森県の高校教師です。田名部高校で五年勤務したあと、青森市内の青森西高校で一年勤務しています。でも、この記事はアメリカのフロリダ州サラソタで書いています。二〇二〇東京に向けて日本ボート協会が取り組んだ初の女性コーチとして、リオオリンピックの翌年、日本ボート協会強化委員会の新体制に加わりました。

今年度はU-23カテゴリーのヘッドコーチを

しています。この遠征が終わると、シニアカテグリーの世界選手権に向けた合宿をしているフランスに合流し一カ月を過ごした後、大会会場のオーストリアに移動します。二〇二〇東京が目指すのは、国や性別、障害の有無に関わらずスポーツを通してすべての人が輝くことにあり、様々な取り組みが行われています。スポーツ現場での男女平等はアスリートの数だけではなく、コーチやサポートスタッフ、大会役員や組織役員などを含め、過去最高の女性参加率になるといわれています。ボート協会初の女性コーチとして、その役割を担っているという重責を感じています。二〇二〇以降は青森県で教師を続けます。

Q今後の目標を教えてください。

まずは二〇二〇東京で、選手を目標に導くことです。しかしながら無力さを感じる毎日です。選手にとってコーチとは、ということを考え勉強しています。でも、もともと私は「スポーツを通して生き方を学ぶ」ということが一番の柱にあります。世界で活躍できる選手でいる時間はとても短いです。だから、勝利至上主義ではならず、私たちアスリートがスポーツを通して得た強靱な精神力と肉体は、自らの勝利や名譽のためだけにあるものではないと思っています。スポーツ選手は自らを信じる力を持ち、挑戦心に溢れ、仲間がいて、夢があります。これこそスポーツの価値、可能性です。強いものとして

の自覚を持ち、大いに夢を語り、人のために尽くす力を持ったトップアスリートとしてありたいのです。今後、指導者として教師として、自覚と責任をもって選手や生徒と真摯に向き合っていくことを目標というか、信念としています。



Q後輩の大高生たちにメッセージをお願いします。

夢物語の主人公は、そのストーリーが夢であることに気付いていないものです。高校一年生のときに抱いた「何分何秒で漕ぎ切れれば日本一になれるか？」という地点をスタートに、出来ないことは出来るようにならないければならぬ、やりたくないこともやらなければならない、それがありません。わからないことは知ろうとし、どう

すれば出来るようになるかを考えました。結局のところ、漕いで漕いで漕ぎまくって、もうダメだと思ってからもさらにもっと強く速く漕ぐうとする、その繰り返しがありました。つまり、今、目の前にあることに全力を尽くすことが、唯一の方法かもしれません。一つ一つ積み上げること。近道はない。後輩の皆さんが、夢物語を実現させることを応援します。

吉田理子さんプロフィール

- ・一九七六年 青森県むつ市に生まれる
- ・一九七二年 大湊高校入学、ボート部に入部
- ・一九九四年 世界ジュニア選手権大会出場 (女子クォードブル)
- ・一九九五年 早稲田大学入学
- ・一九九六年 アトラントオリンピック出場 (軽量級ダブルスカル)
- ・一九九七年 全日本学生選手権 優勝 (シングルスカル)
- ・一九九八年 世界選手権出場 (軽量級クォードブル)
- ・一九九九年 明治安田生命入社 (世界選手権出場、軽量ダブルスカル)
- ・二〇〇〇年 世界選手権出場 (シドニーオリンピック出場)
- ・二〇〇四年 田名部高校教諭となる (軽量級ダブルスカル)
- ・二〇〇九年 青森西高校へ転任
- ・二〇一七年 ナショナルチームコーチ就任

学校だより

校長あいさつ



大湊高校 校長
下川原 堅藏

大湊高校は昨年度創立七十周年を迎え、同窓会の皆様をはじめ多くの関係皆様の御協力により、記念式典及び祝賀会、記念講演会や部活動強化試合など、各種記念事業を無事終了することができましたこと、また、日頃から本校の教育活動に対し多方面から応援いただいたておりますことに、心から感謝を申し上げます。

本年四月からを振り返りますと、部活動では陸上部とヨット部がインターハイ出場。硬式野球部が、全国高等学校野球選手権青森大会において三年ぶりにベスト八進出。伝統行事である「耐久遠足」「大高祭」とともに、生徒の頑張りと同窓

生の皆様をはじめ保護者の御協力により無事終了することができましたことに重ねてお礼申し上げます。

札幌農学校（現北海道大学）開校の初代教頭、クラーク博士の有名な言葉に「少年よ、大志を抱け」という言葉がありますが、これとは別に「青年よ、利己のためやばかなき名声を求めることの野心を燃やすことなく、人間の本分をなすべく大志を抱け」と述べた説もあります。大志を抱くということ、それ自体はとても大事なことだと思いますが、大志を抱くがために遠く遠方を見つめて、今日一日の足元を顧みないというような場合も相当あると思います。

私たち大湊高校の生徒・教職員は、これからも謙虚に一日一日努力を積み重ね、振り返ってみたらいつの間にか大きな歩みをしていくと感ずることができるよう、次の八十周年に向けて真摯に頑張っていきたいと考えております。同窓生の皆様には、本校のさらなる活性化を図るためにも、今後とも御支援御協力を賜りますようお願い申し上げます。

大高祭そして体育祭へ

生徒会長あいさつ

三年 小向 美優

七月中旬、今年度も私たちは夏のはじまりとともに大高祭を迎えました。生徒会執行部はこの日のために、毎日放課後の活動に精を出し、着々と準備を進めてきました。

そして迎えた一日目、鳴り響くねぶた囃子が街中、そして大湊高校に大迫力で大高祭の始まりを告げました。

二日目、三日目も難無く終わる頃、最後のエンディングセレモニーで私たちは、後に大きな後悔となるミスをしてしまいました。確実に大高祭は大成と言えものでした。しかし、私の心にはエンディングセレモニーで起きてしまった、たった一つのミスが心残りでありませんでした。大高祭終了後、生徒会執行部の仲間とともに

に号泣しながら語り合いました。私はあの時の情景、気持ちを絶対に忘れません。

秋には体育祭が待ち受けています。私たち三年生にとってはこれが生徒会執行部引退前、最後の学校行事となります。あの日の自分から受け継いだ想いを背負い、悔いを残さない。今度こそ笑顔で仲間と大成を喜ぶ。そんな学校行事を作り上げ、後輩たちへのバトンを繋げたいと思っています。



リーダー研修会にて（左から4人目が小向さん）

令和元年度部活動戦績 (春季大会、高校総体等)

陸上競技部

県高校総体
男子フィールド第二位
女子総合第五位
個人種目

第一位 女子やり投げ
第二位 男子一〇〇m
男子棒高跳び
女子砲丸投げ
女子混成

第三位 男子四×一〇〇mリレー
女子棒高跳び
女子ハンマー投げ

東北大会

第三位 女子やり投げ
第五位 女子砲丸投げ
以上二種目でインターハイ出場

硬式野球部

全国高等学校野球選手権大会
一回戦 大湊 九―一 青森南
二回戦 大湊 十一―二 八戸北
三回戦 大湊 五―四 木造
準々決勝 大湊 二―十二 青森商業
三年ぶりのベスト八

ヨット部

東北大会
第一位 女子レーザーラジアル級
第二位 女子レーザーラジアル級
以上二名がインターハイ出場

男子バスケットボール部

県春季大会
一回戦 大湊 一二九―二七 金木
二回戦 大湊 一四三―四〇 八戸商業
三回戦 大湊 八八―七七 十和田工業
準々決勝 大湊 九〇―一三一 弘前実業
ベスト八

女子バスケットボール部

県春季大会
一回戦 大湊 五四―三四 五所川原商業
二回戦 大湊 五四―一〇三 木造

ソフトテニス部

県高校総体
男子団体 一回戦敗退
女子団体 ベスト八
女子個人戦 五回戦進出
東北大会出場

水泳部

東北選手権予選会
男子五〇m自由形 第四位
男子一〇〇m自由形 第五位
男子四〇〇m個人メドレー 第四位
以上三種目で東北大会出場

バドミントン部

県高校総体
男子団体 一回戦敗退
女子団体 二回戦敗退

卓球部

県春季大会
男子団体 一回戦 大湊 三―二 八戸工大一
二回戦 大湊 三―二 六ヶ所
三回戦 大湊 〇―三 弘前中央
女子団体 一回戦 大湊 〇―三 八戸東
ベスト一六

剣道部

女子団体予選リーグ 二敗二分 予選敗退
男子個人戦 二回戦敗退
女子個人戦 二回戦敗退
三回戦敗退

サッカー部

県高校総体
一回戦 大湊 〇―四 八戸工業

ソフトボール部

県高校総体
一回戦 大湊 一一―二 三本木農業高校
二回戦 大湊 〇―一〇 柴田高校

ボート部

県春季大会
女子シングルスカル 準決勝進出
東北ボート選手権
女子ダブルスカル 第三位

バレーボール部

県高校総体
男子 一回戦敗退
女子 二回戦敗退



平成30年度卒業生の進路決定先一覧

○ 国公立4年制大学 (14名)

青森県立保健大学(健康科学部2名)、青森公立大学(経営経済学部5名)、弘前大学(農学生命科学部2名)、岩手県立大学(ソフトウェア情報学部)、岩手大学(理工学部2名)、札幌市立大学(看護学部)、室蘭工業大学(理工学部)

○ 私立4年制大学 (56名)

青森大学(ソフトウェア情報学部2名、薬学部)、青森中央学院大学(看護学部4名、経営法学部、保健学部)、弘前医療福祉大学(保健学部)、弘前学院大学(社会福祉学部、文学部)、八戸学院大学(健康医療学部6名、工学部2名)、東北女子大学(家政学部)、秋田看護福祉大学(看護福祉学部)、植草学園大学(発達教育学部)、嘉悦大学(経営経済学部)、金沢工業大学(建築学部)、亀田医療大学(看護学部)、関東学院大学(経営学部、法学部)、駒澤大学(医療健康学部)、神奈川工科大学(情報学部)、札幌学院大学(経済学部)、十文字学園女子大学(人間生活学部)、西武文理大学(サービス経営学部)、仙台大学(体育学部5名)、千葉商科大学(人間社会学部)、帝京平成大学(健康医療スポーツ学部)、田園調布学園大学(人間福祉学部)、東海大学(海洋学部、情報通信学部)、東京国際大学(言語コミュニケーション学部)、東京女子体育大学(体育学部)、東北学院大学(文学部2名、健康科学部)、東北福祉大学(健康科学部)、東北文化学園大学(医療福祉学部)、奈良大学(文学部)、日本大学(スポーツ科学部)、富士大学(経営学部3名)、北海道科学大学(保健医療学部)、了徳寺大学(健康科学部)、和洋女子大学(家政学部)

○ 私立短期大学 (19名)

青森明の星短期大学(子ども福祉未来学科5名)、青森中央短期大学(食物栄養学科2名)、東北女子短期大学(生活科)、弘前医療福祉短期大学短期大学部(救命救急学科)、仙台青葉学院短期大学(栄養学科、歯科衛生学科2名、ビジネスキャリア学科)、東京立正短期大学(現代コミュニケーション学科)、淑徳大学短期大学部(キャリア開発総合学科)、函館短期大学(保育学科2名)

○ 専門学校 (41名)

青森市医師会立青森准看護学院、東北メディカル学院、弘前病院附属看護学校、八戸保健医療専門学校、赤堀製菓専門学校、上野法律ビジネス専門学校、神田外語学院、さいたま看護専門学校、シェフパティシエ専門学校、昭和大学医学部附属看護専門学校、仙台ウエディング&ブライダル専門学校、仙台ビューティーアート専門学校(美容科、ヘアメイク科2名)、仙台保健福祉専門学校、仙台リゾート&スポーツ専門学校、専門学校日本デザイナー芸術学院専門学校、東京アニメーションカレッジ専門学校、東京デザイナー学院、東北愛犬専門学校、東北栄養専門学校、東北文化学園専門学校、東北保健医療専門学校(2名)、日本外国語専門学校、日本工学院専門学校(2名)、日本指圧専門学校、日本児童教育専門学校、日本電子専門学校、日本ナレーション演技研究所、函館看護専門学校、北海道メディカルスポーツ専門学校、横浜歯科医療専門学校、横浜中央病院附属看護専門学校、早稲田美容専門学校(3名)

○ 管内就職 (7名)

一般社団法人下北地区労働基準協会、株式会社マエダ、おつ観光ホテル株式会社、村林電機株式会社、やきとり串や、有限会社ジャムフレンド野辺地、渡邊歯科医院

○ 県内就職 (7名)

株式会社アルファベットパステル、株式会社オーエス・エス、株式会社サンコンピュータ、株式会社ツルハ、日本郵便株式会社、六ヶ所げんねん企画、TBCグループ株式会社

○ 県外就職 (18名)

アサヒサンクリーン株式会社東北支社、医療法人社団明芳会江田記念病院、株式会社アクアテック、株式会社魚金、株式会社カクヤス、株式会社コスモビューティー、株式会社ファインズ東京(2名)、株式会社MORE ROSE、株式会社Wiz、社会福祉法人幸生会、社会福祉法人七日会特別養護老人ホームせんだい郷六の杜、野口観光株式会社、ノーザンファーム吉田勝巳(牧場スタッフ)、羽田空港サービス株式会社、マコトトランスポートサービス株式会社、有限会社アレス、ワーキングホリデー

○ 公務員・自衛官 (12名)

海上自衛隊一般曹候補生(10名)、自衛官候補生(2名)、青森県警、青森県事務職、千葉県館山市

※ 学校・企業名等は順不同です。

Information インフォメーション

皆様の声をお寄せください

同窓会報の紙面をさらに充実させるために、ぜひ会員の皆様から話題をお寄せください。

- 会員に関する心温まる話題
- 活躍している会員の様子
- 特集してほしい企画 etc

会報の配布にご協力願います

現在、会報はいろいろな方法で配布しています。しかし、「えっ、こんな会報があったの?」という

声をよく耳にします。配布にご協力いただける会員の方は、ぜひ事務局までご一報ください。

【現在の主な配布・閲覧方法】

- 会員・生徒保護者等を経由
- 市役所・町村役場の閲覧コーナー
- 同窓会の各会合・イベントで配布
- 学校HPで公開 etc

【お問合せ】

大湊高校同窓会事務局

- ★電話 0175(24)1244
- ★FAX 0175(24)2680
- ★メール dosokai-omn.h@asn.ed.jp